

令和4年1月1日発行

令和4年

1

January

No.572



広報

たらま

TARAMA VILLAGE PUBLICITY PAPERS

鮮やかに飛翔



多良間村は、39番目の
「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています。



旧空港飛行場草地 11月撮影



新年のごあいさつ

多良間村長

伊良皆 光夫

次代を担う人材育成と地域づくりに向けて

新年明けましておめでとうございます。村民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、当たり前の日常生活が大きく制限されてしまいました。村民の皆様も緊張感の中での生活が続き、大変な毎日をお過ごしのことと思います。そんな中にあつても、感染拡大防止と社会経済活動の両立のため、様々な面において、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

コロナ禍で活動が制限される中、私たちは大切なものを忘れつつあります。それは、人と人とのつながり、ふれあいです。地域の中での活動、仲間たちとの交流、会話を弾ませながら楽しむ会食、リフレッシュしながら感動体験ができる旅行、子どもたちの学校行事、そして、心豊かに育んでくれる文化芸能活動の機会も減ってしまいました。現在、日本のコロナは落ち着いています。世界では変異株オミクロン株の感染が拡大し続けています。ただコロナ禍でも工夫してできることを取

り組む、人と人とのつながりを大切にしてい、相手を思いやり、支え合っていくことの重要性を感じます。

本村はこれまでの財政健全化の取り組みにより、財政状況を表す指標「実質公債費比率」は、平成25年度の12.7%から7.5%へ改善、貯金に当たる基金は積み増し、借金に当たる地方債は大幅に減らすことができました。これにより、本村の将来的な負担の大きさを表す数値「将来負担比率」は「数値なし」が続ぎ、財政状況は大きく改善しました。これも、村民の皆様のご協力のもとより、事業実施に当たっては国・県の有利な制度や補助金を活用する、といった取り組みの結果でございます。あらためて、村民の皆様のご協力に感謝申し上げます。本年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大変厳しい財政運営が予想されますが、これまで培ってきた財政健全化に対する経験を生かし、このコロナ禍を乗り切つてまいります。

新型コロナウイルス終息には、険しい道が続きますが、コロナ禍においても多良間村発展の歩みを緩めるわけに

はまいりません。引き続き、時代を担う人材の育成、子育て支援、雇用の創出、移住・定住促進に取り組みとともに、村民の皆様との命と暮らし、地域の経済を守るため全力を尽くしてまいります。

本年の干支であります「寅」の年は、「陽氣を孕み、春の胎動を助く」冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれることを表している、といわれています。依然として予断を許さない新型コロナウイルス感染症ですが、村民の皆様の声に耳を傾け、必要とされる支援を進めてまいります。このような困難な状況にある時こそ、しっかりと地歩を固め、やがては新たな発展へとつながる礎となりますことを願うとともに、本年が皆様にとりましてすばらしい年となりますことを心よりご祈念いたします。年頭のごあいさつといたします。

令和四年 元旦



新年のごあいさつ

多良間村議会議長

福嶺 常夫

新年明けましておめでとうございます。

村民の皆様には、新たな希望と抱負に満ちた輝かしい令和4年の新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、村議会活動に對しましては、日頃から温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、小笠原諸島で海底火山噴火が発生し、鹿児島県や沖縄県に軽石が漂着をし、大きな被害をもたらしました。本村でも軽石が漂着しましたが、早急な対応により収集することができました。

新型コロナウイルス感染症もワクチン

ン接種により感染者が減ってきており、終息に向かいつつありますが、11月にオミクロン株が発生しており、まだ油断は許されない状況化にあります。一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息することを願います。

さて、本村においては台風や干ばつ等の被害も少なく豊作型となり、12月2日に、製糖工場で年内操業も開始され今期製糖も豊作が期待されます。

葉たばこの今期生産も目標達成に向け頑張っております。カボチャ農家

も増え増産に向け取り組んでおります。畜産においても、昨年もあり高値が続く今期も期待されます。

行政においては、県の二括交付金事業で行いました、沖縄県離島型畜産化事業（多良間村団地牛舎等建設工事）が6月30日に完成しており、小規模畜産農家の育成を期待したいです。土地改良事業も着々進めており、近い将来、大型機械に耐用をするような区画整備を行っております。また、フェリー新造船も建造し、1月から運航されます。

今後とも村議会に對しましてご支援ご提言をお願い申し上げます、令和4年の寅年が村民の皆様にとりまして、実り多い年でありませう祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

令和四年 元旦





新年のごあいさつ

多良間村教育委員会

教育長 池城 三千雄

教育活動を継続的に！

あけましておめでとうございます。

村民の皆様には、輝かしい2022年の新春を迎えられ、心身ともにご健勝で活躍のことと、お喜び申し上げます。昨年は、教育委員会の行政運営に対し、ご協力・ご支援をいただき心から感謝申し上げます。

コロナ禍で教育活動も規模縮小、行事の中止が続いておりますが、10月2日には、幼小中合同運動会が中学校「全天候型グラウンド」で開催されました。

児童生徒の活発な係活動でプログラムを進行、各学年の演目、中学生全体のリズムダンス、小中合同エイサー、総員リレー等、真新しいグラウンドいっ

ぱいに駆け回る児童生徒に爽やかな感動を覚えました。

又、昨年は多良間小学校創立130周年を迎えましたが、記念式典・祝賀会は中止としました。記念事業として、子ども達の固定遊具「ボルダリング壁」を設置しました。赤、青、黄色の鮮やかな壁が校庭に輝いております。

交付金活用で教育活動の充実、継続を！

沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）事業が次年度からも活用出来る見通しになりました。それに伴い以下の事業を継続出来るように申請しております。

①多良間村地域型就業意識向上支援事業（小6年ジョブシャドウイング、中1年プロジェクト、中2年職場体験）②村営学習塾③児童生徒島外教育諸活用助成事業（派遣費）④学力向上推進ALT活用事業その他事業による助成事業①各種検定受験料助成②少年海外派遣サマースクール助成など…児童生徒の教育活動は継続して支援していく計画です。

教育委員会では、子ども達の健全育成に努めていくことを基本にしています。そのためには「学校家庭・地域・行政」の連携が不可欠です。「島の子ども達はみんなで守り育てる」「早起き・朝ご飯十会話」、連携を密にして取り組んでいきたいと思っております。

2022年の寅年「十日越し夜雨、豊年満作」コロナも終息して昨年に倍して勝る一年になりますことと、皆様のますますのご健勝を祈念申し上げます。今後とも、子ども達の健全育成のため、ご指導、ご協力をお願いして新年のごあいさついたします。

令和四年元旦

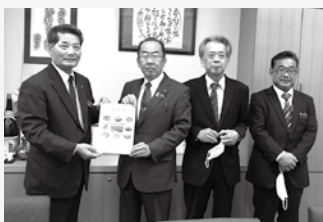
要 請 先



内閣府沖縄振興局 森廣敬参事官



国場幸之助 衆議院議員



西銘恒三郎 沖縄・北方対策担当大臣



農林水産省農村振興局 牧本幸司局長



宮崎雅夫 農林水産大臣政務官



進藤金日子 参議院議員



農林水産省農村振興局
川合規史整備部長



宮腰光寛 元沖縄・北方担当大臣

多良間村国営土地改良事業は、土地改良総合事務所を主幹として現在、令和5年度から実施設計が3年間、令和8年度から工事着手の予定で地区調査という業務が着々と進められています。事業のさらなる早期着手を要望するため、11月24日、25日の日程で、内閣府、農林水産省、関係国会議員に要請活動が

行われました。伊良皆光夫村長、沖縄県土地改良連合会の知念武専事務理事、金城政幸総務部長、宮古農林振興センター平良和彦農林水産整備課長が参加し、それぞれの要請力で早期着手に向けて後押しをしていくという心強い返事がいただけました。

国営事業の推進について要請



優秀賞受賞（同）涌川畜産、森山英樹さん
右）県畜産共進会へ出品された宮古和牛改良組合
多良間支部長東風平正明さん

伊良皆村長は「2年ぶりの開催の中で多良間島から2頭が受賞するという素晴らしい成績で嬉しく思う。皆様の日頃の飼養管理、改良に向けた取り組みが実った結果である。皆さんの努力を他の皆さんに伝えながら今後も頑張りたい」と激励した。

11月5日に開催された県畜産共進会の受賞報告が12月1日村長室で行われた。多良間村から3頭の出品があり若雌第1類（同）涌川畜産「きみつ号」、若雌第2類 森山 英樹さん「きちょう号」の出品牛が優秀賞を受賞しダブル受賞の快挙を成し遂げた。

第47回沖縄県畜産共進会 肉用牛部門受賞報告

令和4年1月

ひとりごと

村長の

たうけー むぬゆむ



NHKBSプレミアムで「英雄たちの選択」闘う復興請負人「二宮金次郎」という番組が放送された。明治以降、「勤勉」「孝行」の象徴となった二宮金次郎。金次郎は、荒廃した農村を復興させた農民出身のすぐ腕経営コンサルタントであった。しかし、その前には藩の官僚機構の先例主義や権威主義の壁がたちだかる。「闘う復興請負人」金次郎の知られざる実状。

二宮金次郎については、少年時代の薪(たきぎ)を背負(せおい)歩きながら読書する姿が有名だ。それは一生懸命勉強し、家庭の仕事を手伝い、より良い生活をめざす人間としての模範的な姿だ。この

ことにより昭和に入ってから全国の学校の校庭に少年時代の二宮金次郎像が次々建てられるようになった。多良間小学校の二宮金次郎の石像は、昭和16年本村出身親里春順氏が小学校創立50周年記念として寄贈されている。親里春順氏のお孫さんと東京でお会いし、金次郎談義で花を咲かせたことがある。

二宮尊徳こと二宮金次郎は、江戸時代末期に関東地区から南東北の農村復興に尽力した。比較的裕福な農家の長男として現在の神奈川県小田原市で誕生、幼少期から教養のある父に教育をつけ、一方では優しい母の慈愛のもとで、

幸せに育った。しかし、不幸にして異常天候のため、地域の川の氾濫が度重なり、一家が所有していた田畑は流されてしまう。荒廃した田畑の回復もかなわず、父母は心労疲労で相次いで死去、一家離散という悲劇となった。

金次郎は親戚の家に預けられ、朝暗いうちから汗と泥にまみれて一生懸命働き、わずかな時間でも無駄にせず勉強に勤しんだ。家の仕事や勉強の合間に、捨ててあった稲の苗で種を採るため空き地に植えて収穫、毎年その収益を少しずつ増やしていった。質にいれていた田畑を少しずつ買い戻し、24歳までに実家の再興に成功する。このことにより、小さな努力の積み重ねが大切だという「積小為大(せきしょういだい)」の考えを体得する。

実家の再興を成し遂げた金次郎に、小田原藩は財政再建を依頼、金次郎はそれを成功させる。また、さまざまな大名・旗本等の財政再建と領民救済を担い、成功を遂げたことで一躍有名となった。そのころは大飢饉で農村が疲弊しきつていた。そのような大変厳しい

時代にあつて、金次郎が再建の手ほどきをした村は600か所以上にのぼるといわれている。常識や慣習にあらがいつつ、独自の思想と実践主義で荒廃した農村の復興に命をささげた。しかし、すべてがうまくいったわけではなく、今で言えば「地方創生」の理想を追い求め続けた生涯だった。

昭和の軍国主義のなかで「至誠報徳」の教えが、皇民化教育のために利用され、薪を背負いながら勉強している姿の像は、全国に盛んに建立された。しかし、第二次世界大戦には、金属製の金次郎像はほとんどが金属供出され、鉄砲の象徴として撤去された像もあるが、戦後に再建された像も多い。ただ、昨今金次郎像を撤去しようという動きがあるようだ。その理由が「歩きながら本を読むことを助長するから危険」「子どもが働く姿は現代にそぐわない」。笑話のようにも聞こえるが、狭い見方で物事の本質を捉えることはできない、浅はかな考えだと思ふ。

多良間駐在所から 新年の挨拶



多良間村の皆様、新年明けましておめでとうございます。
旧年中は村民皆様のご協力のおかげにより、大きな事件事故もなく過ごせたことに大変感謝申し上げます。
しかしながら、村内において交通事故が昨年中は5件発生しており、交通事故ゼロに向けてこれから気を引き締めていかなければなりません。交通事故以外にも事件の発生ゼロも併せて目指し、安全で安心して暮らせる多良間村にしていく所存であります。村民の皆様の更なるご活躍と輝かしい1年になりますよう心からお祈りいたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



多良間駐在所からのお知らせ

● 刈払い機について

村内の住宅敷地内倉庫に保管していた刈払い機がなくなっているとの話があります。

特徴として

クボタ製、本体の色は青色、黒色ハンドル、長さ約2メートルです。倉庫内には本体肩掛け用のベルトが取り外されて置かれた状態でした。

心当たりのある方は些細な事でもいいので情報提供をお願いします。また、倉庫入り口には施錠設備を整えるのも簡単な防犯対策としてありますが、本体を購入した際には取扱い説明書等に本体の製造番号や型式も記載されています。それ以外に本体にもシール様なもので張り付けられたりしていますが、これらは物品の特定に役立つので大切に保管してください。

第7回コミュニティーまつりで善行賞・教育功労賞表彰式

令和3年12月4日から開催された第7回コミュニティーまつりにおいて善行賞及び教育功労賞の表彰式が「ふれあいフクギ館」で行われた。善行賞は学業優秀で児童会・生徒会活動、ボランティア活動等、模範になる児童生徒がそれぞれ表彰され、小学生から湧川晴世さん、中学生から佐和田稀央さんが受賞した。

教育功労賞は「多良間の豊年祭」八月踊りの普及振興に貢献された多良間武さんが受賞。

多良間さんは「これまでお世話になった地謡座、組座

の皆さんに感謝を伝えたい。これからもこの素晴らしい文化が発展していく事を願う。」と気持ちを述べられた。



善行賞



教育功労賞

令和3/4年期 製糖操業開始式



安全操業を祈願し
サトウキビの投入が行われた(多良間工場)

宮古製糖(株)多良間工場(来間春誠工場長)の令和3/4年期操業が12月2日から開始された。操業開始式の挨拶で宮古製糖(株) 渡久山代表取締役社長は「多良間工場では今期の生産量を29,500トン見込んでいる。関係機関と共に協力し農家所得の向上に貢献をしていきたい。」と挨拶した。

来賓挨拶で伊良皆村長は「今期のさとうきびは品質、量ともに素晴らしく、農家の日頃の肥培管理のおかげもあり何十年ぶりの大豊作になるということで期待したい。工場職員の皆さんの技術力を発揮しながら無事故無災害で操業されることを願う。」と述べた。

今期のサトウキビは、適期の十分な降水量に恵まれ台風被害もなく気象条件に恵まれた年であり大豊作が期待されている。

世帯数と人口

(令和3年11月末現在)

総世帯数	522 (5)		
総人口	1,090 (10)		
男	595	女	495
区 別	人 口		世帯数
土 原	61 (0)		32 (0)
天 川	84 (-1)		45 (0)
津 川	98 (2)		45 (2)
宮 良	73 (1)		31 (0)
嶺 間	148 (4)		66 (0)
大 道	184 (-1)		92 (-1)
大 木	258 (4)		118 (2)
吉 川	180 (1)		90 (2)
水 納	4 (0)		3 (0)
出 生	1	死 亡	1
転 入	12	転 出	2

()内は前月比

緊急ダイヤル

火災・救急ワンクッションコール	119 番
警察官派出所	(79-2010) 110 番
急病人／多良間診療所	79-2101
歯科診療所／医師	79-2162
停電／沖縄電力多良間電業所	79-2147
断水／役場住民福祉課	79-2623
家畜疾病／役場産業経済課	79-2503
ガス専用／JA 多良間	090-6859-2355

第73回人権週間

1948年国際連合総会で「世界人権宣言」が採択されました。これを記念し採択された12月10日を世界人権デーと定め、毎年12月4日から12月10日を「人権週間」とし、全国各地で人権尊重思想の普及高揚のため啓発活動が展開されています。

多良間村では、この人権週間に合わせて人権擁護委員による街頭啓発活動や特設相談所開設を行いました。



【街頭啓発活動】
人権擁護委員 村山武憲さん、島袋梅子さん
Aコープたらま店前

編集後記

●皆様おすこやかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は広報紙へのご協力などお世話になり誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いします。

●表紙の写真は、村在住の村山武範さんが11月に旧空港飛行場草地で撮影した渡り鳥ニシブツポウソウです。連絡を受け現場へ向い30分位待機していたところ、再び姿を現し撮影することができたそうです。素敵な姿が魅力のニシブツポウソウですが、どんな鳴き声なのか気になりますね。貴重な写真のご寄稿ありがとうございます。

(兼本)

沖縄県離島住民割引カードの有効期限の確認のお願い

沖縄県離島住民割引カードは、沖縄県が実施する離島住民の交通コスト負担軽減事業における離島住民のために設置された運賃で購入することができるカードです。

搭乗直前まで有効期限切れに気づかず、離島割引を適用できない方が増えているようです。

飛行機や船に搭乗する際に、沖縄県離島住民割引カードの確認が必要となりますので、お持ちのカードをご確認いただき有効期限が切れている場合は、多良間村役場総務財政課で更新の手続きをお願いします。

お問い合わせ先：☎79-2011（多良間村役場総務財政課）